

「南木曾町リニア活用基本構想」(案) に対するパブリックコメントの結果について

令和2年3月10日(火)から3月24日(火)まで「南木曾町リニア活用基本構想」(案) に対しての意見を募集したところ、3件の意見等をいただきました。

御協力ありがとうございました。

意見・提言	町の考え方
<p>リニア計画そのものについては、経済性、安全生、環境への影響などの問題から、計画の凍結見直しを求める立場であるが、リニア計画が進行している中において、自治体としてこの計画によって何がもたらされ、どう対応していくかを検討することは当然のことであると理解をしながら、今回の基本構想について意見を述べます。</p> <p>なお、意見を述べるにあたっては、南木曾町ホームページに掲載された基本構想(案)を唯一の資料としています。(以下では構想案とします。)</p> <p>1. 構想案の構成について</p> <p>目次の「2 リニア開設に伴う通過地域社会への影響と近未来地域づくり」は、専門家の提言となっている。</p> <p>この提言がここに示される経緯が不明であり、受け取る側には唐突な印象をもつ。</p> <p>以下のような構成にしてはどうか。</p> <p>2 リニア開設に伴う町への影響と地域づくり</p> <p>(1) 松本大学名誉教授 佐藤 博康 氏の提言 「リニア開設に伴う通過地域社会への影響と近未来地域づくりについて」</p> <p>(2) 提言にいたる経過</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、「南木曾町リニア活用基本構想の策定にあたり、松本大学名誉教授佐藤博康氏に「リニア開設後の南木曾町」をテーマに提言(未来予測)をいただきました。」を追記しました。</p>
<p>2. 「外貨を稼ぐ力をつくる」について</p> <p>「外貨を稼ぐ力をつくる」という言葉が象徴しているように、リニアの活かし方の中心が観光産業になっていることは、リニア計画の本質がどこにあるかを逆説的に示しているのではないのでしょうか。</p> <p>全幹法に基づいて進められているリニア新幹線は、法律の趣旨からして曲がりなりにも地域振興のため大きなテーマのはずであるが、地域で構想を作ると、今回のように観光産業を全面に出したものにならざるを得ないということです。</p> <p>中山間地域の疲弊が観光産業重点の政策で解決するとは思われません。</p> <p>南木曾町に相応しい地域づくりを、リニアに依存した形で進める場合にはよほど注意が必要と思います。</p>	<p>ご意見いただいた事項については、今後の事業にあたっての参考にさせていただきます。</p> <p>なお、「南木曾町に相応しい地域づくり」については第10次南木曾町総合計画や南木曾町地方創生総合戦略第2期計画をご覧くださいませようお願いします。</p>

3. 構想案の取り扱いについて

今後の取り組みのところには、例えばの町民からの意見であろうか「あっちこちに様々な小さな施設をつくるのではなく集中すべき。保育園もそう。」といった言葉が唐突に示されています。

こうした文言が示す構想案の意図は、町の総合計画の範疇も超えて一人歩きしていくことはないのか懸念します。

また、2項との関係で、「公共投資の選択と集中」という文言も出てきます。リニア計画に前のめりな町の投資になっていく契機にこの構想案がならないようにしたいものです。

ご指摘の趣旨を踏まえ、町民からのアイデア、意見の「保育園もそう。」を削除しました。

ご意見いただいた事項については、今後の事業にあたっての参考にさせていただきます。